

平成27年6月13日

日本メキシコ学院での教育活動

前日本メキシコ学院 教諭

鶴ヶ島市立南小学校 教諭 目黒 弘樹

1. はじめに

2012年4月に赴任して、3年間メキシコシティで生活をしてきた。メキシコに行く前は暑いイメージばかりであった。しかし、実際に生活してみると、一年を通して暑くもなく、寒くもなく、とても過ごしやすい気候であった。私が派遣されていた日本メキシコ学院は、日本コース・メキシココースの2コースから成り立っている。学院全体では約1100人の子ども達が在籍している。同じ敷地内に現地校と日本人学校が併設されているのは数ある日本人学校のなかでも、とてもまれなケースである。日本コースには小学部と中学部がある。現在、小学部の児童は約120人、中学部の生徒は約30人である。そのうち、約90%は駐在員の家庭の子女であり、約10%が現地に永住している家庭の子女である。そこには、それぞれのニーズが違い、教育の難しさがある。2012年の赴任した当時と比べると、人数は年を追うごとに増えている状況である。これは、日系企業のメキシコ進出と大きく関係している。特に小学校の低学年の人数増加は著しい。具体的に、小学1年生の入学時の人数を比べてみると、15人(2012年度)→23人(2013年度)→25人(2014年度)となっている。今後も増加が予想されている。

メキシココースには幼稚部、小学部、中学部、高等部がある。日本人の就学前の園児たちはメキシココースの幼稚部に通っている。幼稚園のクラスに在籍する日本人は約1/3で、残りはメキシコ人となっている。日本メキシコ学院全体の敷地はとても広く、芝とタルタンの大きな校庭と体育館の他に講堂や温水プールなど、充実した施設がある。しかし、メキシココースと日本コースの時間割がばらばらなので、こちらが校庭で体育の授業をしても、メキシココースの休み時間と重なったりすると大変なことになることがある。そんなときも、臨機応変に授業を進めていく心の広さが必要である。

以上のように、もちろん大変なことも多々ある。しかし、それ以上に併設校にはよさがたくさんある。併設校としてのよさは、同じ敷地内にあるということで、交流活動や交流授業、体験入学が盛んに行われていることである。これまでもメキシココースの国語の授業を合同授業としてやっていただいたり、こちらからは道徳の授業を日本語とスペイン語で行ったり、日本の遊びを教えたり、それぞれのコース間での体験入学も行われている。また、それぞれのコースの家庭での院内ホームステイ交流も行われている。さらには、独立記念日や革命記念日、死者の日、クリスマスなどの大きな行事には交流活動が行われている。そして、一番大きな取り組みとしては合同大運動会がある。日本とは違う雰囲気の中で行われるのだが、練習から一緒に行くことで、お互いのコースがとても仲良くなり、その後の交流においてもスムーズに進むことが多い。

2 交流授業

日本メキシコ学院の特徴の一つとして、メキシココースが併設していることがあげられる。同じ敷地内の隣の校舎にいるメキシココースの子どもたちとは、すぐに交流できる環境があるといつてよい。しかし、交流を進めるにあたって、日程や事前打ち合わせなどさまざまな課題があり、それらをクリアしていくことができると、交流はよりスムーズに行うことができる。そこで、日本コースは過去3年間の校内研究を「交流」について行ってきた。そして、3年間の研究の成果として出来上がった、「各学年の交流年間計画」や「交流シラバス」が今後も継続的に行うことが可能かどうかを検証していく研究を昨年度は行った。

2014年度、私は小学部6年生の担任として、1年間を通して総合的な学習の時間に和太鼓演奏に取り組んだ。6年生の交流授業は基本的には和太鼓を通してのものである。具体的な内容としては日本コースが事前に覚えた曲をメキシココースの児童に教えるというものである。スペイン語が苦手な児童にとって、基本的な言葉だけを使えばよく、体を動かして教えられる交流はとても効果的であった。また、メキシココースは日本語を学習しているので、簡単な日本語を使うことができることも交流をスムーズにしてくれると感じた。また和太鼓の交流の他にも、毎週両コース一緒に活動する「合同クラブ」、毎月1回学院全体が集まる「学院朝会」、5月に行われる「こどもの日交流」、9月に行われる「独立記念交流」、11月に行われる「死者の日交流」、「大運動会」、12月に行われる「クリスマス交流」「大使館レセプション」、1月に行われる「文化祭」とたくさんある。さらに、6年生は修学旅行先のグアナフアトにて現地の小学生とおりがみ交流を行った。たくさんの交流ができる恵まれた環境の中で児童は楽しみながら現地理解をしていると感じた。

3. メキシコの教育的あそび

日本コースのスペイン語の授業の際やメキシココースの言語を教える授業や年中行事の際によく行われているのがロテリアである。そのほかにも教育的あそびはあるのかどうかについてインタビューをしたところ、特別な物はないということがわかった。ただし、いろいろな年中行事の中で行う決まったあそびがあることがわかった。

(1) ロテリア

ロテリアは「ビンゴ」と「カルタ」を合わせたようなあそびである。あそべる人数は2人～10人程度である。あそぶ手順は以下の通りである。



- ① 16枚の絵が描かれた台紙カードを一人ずつに配る。
- ② 遊ぶメンバーでトランプのようなカードを一枚ずつ引いていく。
- ③ 引く際にはカードに書かれている言葉を言う。
- ④ もし自分のカードに引いたカードと同じ絵柄があれば、そこに印をつける。
- ⑤ 16マスの全ての絵柄に印がついた人が勝ち。

このあそびはいろいろな絵柄に適用されている。例えば「フルーツ」・「動物」・「食事」・「国旗」・「幼児のおもちゃ」・「アルファベット」などである。身近なものの言葉をゲームの中で覚えられる伝統的な教育的あそびである。

また、日本のカルタと同じようにお正月によく行われるようである。日本メキシコ学院の全生徒児童が集まる学院朝会の際にも、ロテリアを紹介しているときがあった。



4. メキシコの伝承あそびと季節行事

(1) 伝承あそび

メキシココースの休み時間に校庭に行くと、男子のほとんどがサッカーをしている。ほかのあそびをしている男子はほとんどいない。また、女子は校庭の隅で話していることが多く、サッカーには加わっていない。

メキシコ人はサッカーがみんな好きで、小さいころにみんながやっているようであった。学院内でメキシコ人のサッカーチームと試合をしても、みんな上手で驚いたことがあった。

学院内ではサッカーをやっている児童生徒が多く、他のあそびをほとんど見るができなかったのので、現地職員にメキシコでの伝承あそびについて聞き取り調査を行った。調べてみると日本とにているものがいくつかあることが分かった。以下の表がメキシコで行われている伝承あそび例の一覧である。

メキシコのあそびの名前	対応する日本のあそびの名前
パトパトガンソ (あひるあひるがちょう)	いけこいおに
セボジータス (小さいたまねぎ)	大根抜き
アビオン (ひこうき)	ケンケンパ
ロボ (おおかみ)	鬼ごっこ
コミディータ (食事)	おままごと
エスコンディディージャス	かくれんぼ

(2) 季節行事

メキシコではいろいろな季節の行事の中であそびや風習がある。このような行事の際にはメキシココースと日本コースでの交流活動が行われる。行事のときに行われる交流活動では、同じ敷地内で学んでいる両コースで一緒に行事を楽しむことが多い。日本とは違い興味深いものも多く、いろいろなものがあるのでここで代表的な行事を紹介したい。

① 独立記念日

9月15日がメキシコの独立記念日である。この日はメキシコの国旗の色である赤、白、緑、のものを身に着けたり、顔にペイントしたり、髪の毛にスプレーをしたりして、祝い楽しむものである。日本でのお祭



りや縁日のように学校では盛り上がる行事である。児童もメキシココースとの交流でゲームをしたり、お菓子を食べたりと楽しい一日となる。

② 死者の日

1 1月の月上旬に死者の日は行われる。この行事は日本のお盆と同じような意味合いを持っており、オフレンダという祭壇を作り、お祝いをする。学院では、その日は自由服登校となり、児童生徒教員全員が仮装をする。もちろん、その日は一日その格好で授業を受けることになる。児童にとってはちょうどハロウィンパーティーの意味合いが強いようである。



③ ポサダ (ピニャータ)

1 2月16日から始まるポサダは、キリスト誕生の直前にマリアとホセが家から家を訪ね歩き、宿(Posada)を求めて巡礼していたことにちなんだお祭りである。日本でいうクリスマスと基本的には同じようなものだと考えてよい。学校でもポサダにちなんだ行事として、ピニャータ割りがある。日本メキシコ学院では、日本コースとメキシココースでの交流活動の一つとして、ピニャータ割りが行われる。ピニャータとは、7つの突起がついた星のようなものであり、それを子どもたちが割るために木の棒で叩き、遊びである。このピニャータにはヒモを付けて、両端を大人がもち、ぶら下げた状態で行う。子供たちは順番に叩き、最後はピニャータが割れ、中に詰めていた菓子が落ちてきて、それをみんなで拾うのである。このピニャータは行事のクライマックスとして行われることが多い。また、誕生日会の時には必ずと言っていいほど行う。周りが歌を歌ったり声をかけたりして叩くことから、日本のスイカ割りと似ているといえる。



5. おわりに

始めは不安だらけのメキシコでの生活であったが、振り返ると私にとって大きな財産となった。特に「新しい発見、新しいものの見方や考え方、出会い」はここでしか体験できない大変貴重なものとなった。今後はメキシコの地で経験したことを、未来ある児童のために還元していきたい。